

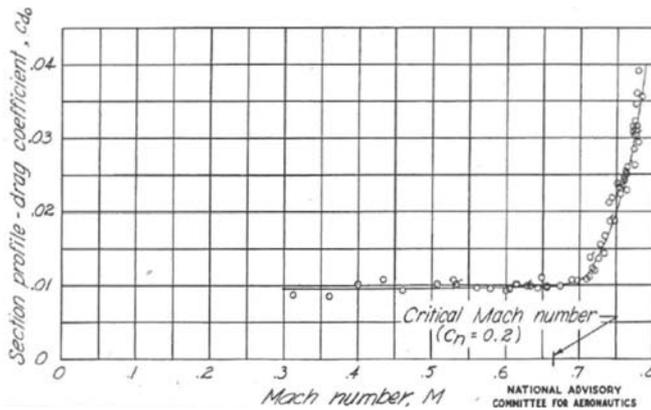
巻頭言

ご挨拶

航空宇宙会会長 東京大学名誉教授 加藤 寛一郎 (昭和 35/3. 航空学専修)

このたび会長をお引き受けさせていただくことになりました。お役に立てるか、とても心配です。どうか、何卒よろしくお願い申し上げます。

電話で就任を打診されたとき、弁解じみですが、『空の黄金時代』（2013年東京大学出版会刊）の構成に心奪われ、気分高揚しておりました。なぜか。つぎの図をご覧ください。



図はイエーガーの音速突破六ヵ月前、NACAのTN 1190が公表した一戦闘機ムスタングを使った一飛行試験結果です。縦軸は翼の形状抵抗係数、横軸はマッハ数です。あのころは誰もが、音の壁がレンガのように立ちだかると信じていました。それに挑む心意気！ 彼を囲む三人の美女！

気がつくと私は、諾のご返事を差し上げておりました。これは、勘のなせる業であったと考えております。私は、勘は良い方だと自惚れています。なにしろ、名前をカン二郎と申します。

よって勘の効用について、駄弁をお許してください。

「エレガントに軽やかに、機は高度を下げて最初のターンに入る。おれは目を凝らした。海からはいるとき、ちょっとした横風があたる。だがピアッジオは、みじんのゆらめきを見せず着陸態勢をとる」

これは英空軍の元パイロットで、後に英国推理作家協会賞を受賞するギャビン・ライアルの『ちがった空』（ハヤカワ・ミステリ）の、冒頭の場面です。

私は長く、操縦の神業や腕の良い飛行機乗りを追ってきました。発端は、この「みじんのゆらめき」という表現にありました。主人公はその飛び方を見て、誰



が操縦しているか見分けるのです。これが、操縦の名人芸について考え始めた切っ掛けでした。ここから私は、深みに填りました。

しかし、大学定年後勤めた役所の会議の最中に、これが虚構であることに気づきました。軽量の複葉機ならいざ知らず、1、2キロ先を飛ぶ小型機の「ゆらめき」など、「目を凝らし」ても見えるはずはありません。それを読者に気づかせず、不肖飛行の専門家である私まで騙す。それが作家の技量、力量だということに、遅まきながら気づきました。

私が大学定年後に果たした進歩は、この1点しか無いのではと考えております。思えば私の本業の大半は、誤りに基づいた思い込みから出発しました。しかし結果的に、楽しい面白い目に会いました。我が思い込みは、1種の勘の冴えではなかったかと、勝手に解釈することにしています。

さて私は、五十代後半からは、人の集まりに出来る限り顔を出さないことを、偏屈流のモットーにしてまいりました。その私が航空宇宙会役員会のお誘いに、うかうか乗った理由はなにか。

それもやはり、自慢の勘によるものではないかと考えております。航空宇宙会の総会や講演会に出席すれば、「斬界の権威、大物、血気盛んな若者たちに、予約なしで会うことができる」ということに、本能的に気づいたからだと思えます。

これが、拙稿を書く羽目になった理由かと考えております。会場で皆様にお目にかかれる日を、胸ときめかせ、楽しみにいたしております。

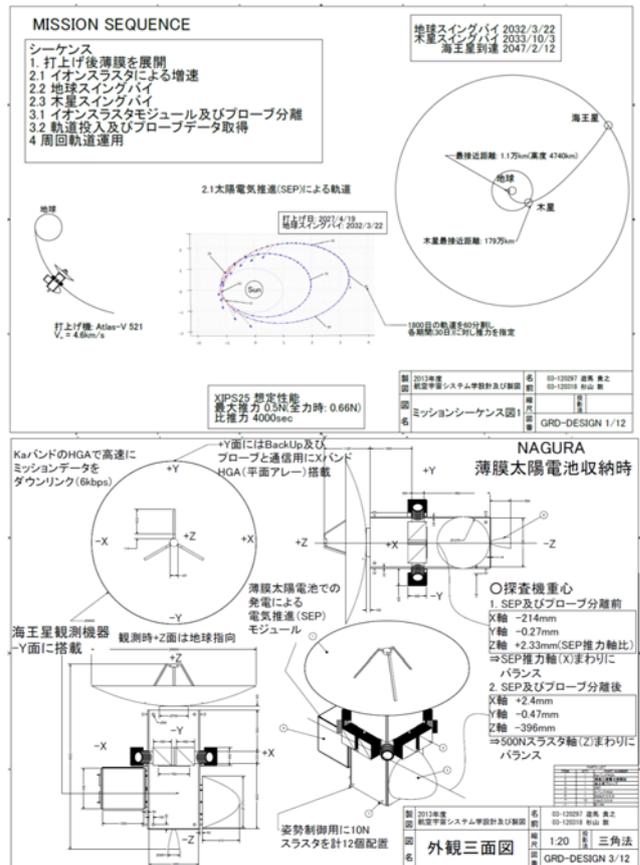
演習、宇宙機制御工学、宇宙軌道力学、航空宇宙機器システム工学などの講義がベースとなっているが、それだけでは情報は不足しており、さらに過去の卒業設計や宇宙プロジェクト関連の雑誌論文、学会発表など多くの文献から必要情報を採る作業も大事な鍛錬として実施させているほか、必要時には、JAXA や企業で活躍する宇宙のプロフェッショナルの先輩に聞きに行くことも推奨しており、その際にはディスカッションの中で、自分が抱える問題を越えたさまざまな知見を得る機会ともなっている。また、卒業論文で行った研究と絡めた宇宙機システムを検討する学生も多く、その場合には、自分の研究がどのような出口につながるかを自分で考えるいい機会になっていると感じる。また、ここでの設計をベースに、衛星設計コンテストで大賞を取った作品もあり、さらに、東大内で開発が実際に進んで打ち上げられた衛星が 2 機ある点も付け加えておきたい。

少しめづらしい宇宙機や最近よく取り上げられる題材を挙げると以下のようなものがある。

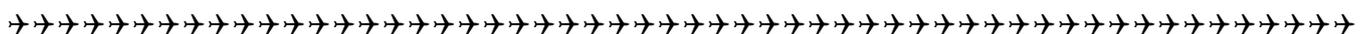
- 1) 地球周回人工衛星：デブリ観測・除去、エネルギー供給衛星、人工流星衛星等の新規物も
- 2) 惑星探査：地球外生命発見を狙ったエンケラドゥス、エウロパ、海王星探査（図参照）などが流行
- 3) 有人宇宙：宇宙ステーション・ホテル、老人・医療用施設、深宇宙有人探査機など
- 4) 輸送関係：軌道エレベータ、ステーション近傍での救助カプセル・一人乗り移動機等

毎年、学生の若い頭で考えた面白いミッションが出てくるのに出会うことは私としても非常に楽しみであり、また、気がつかなかった実現方法を学生が提案してくれたときなどは非常にうれしい。30 年前の自

分の学生時代を振り返ると、卒業論文が一点突破的に深く掘り下げていく作業であるのに対し、多くの分野を統合して、あるシステムを構築する非常に横断的な作業として私は卒業設計の方が楽しく、かつ勉強になったと記憶している。今後もこの必修課題を通して、そのような航空宇宙分野の醍醐味を学生が感じ、力をつけてくれることを願っている。



2013 年度卒業設計の例（海王星探査機）



航空宇宙会からのお知らせ

(1) 航空宇宙会総会および講演会のお知らせ

下記の要領で開催しますので、ご参加の程お願い申し上げます。

1. 日時：平成 26 年 6 月 28 日（土）14 時開会
2. 会場：東京大学 武田ホール
 〒113-0032 東京都文京区弥生 2-11-16
 東京大学浅野地区 武田先端知ビル 5 階
 （下記 URL の地図をご参照下さい。）
http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_04_16_j.html
3. 講演会：14 時～16 時
 講演：加藤寛一郎：『女たちの超音速飛行』
4. 総会：16 時開会
5. 懇親会：総会に引き続き開催
 会費 ¥5,000（学生 ¥1,000）

航空宇宙会総会出欠申込（いずれか）

- [1] 会費振込用紙：00150-1-55763 航空会（註：旧称継続）
 [2] E-mail：

同封の会費振込用紙で、4 月末日までにご出欠の回答をお願いします。必要事項（氏名、卒業年月、コース、現住所、封筒ラベル下段整理番号、異動）も併せてお知らせ下さい。下記メール、FAX でも出欠を受け付けています。「航空宇宙会総会」と明記の上ご送信下さい。

(2) 会費について

「航空宇宙会会費・通信費」として年額 1,000 円をお願いしております。同封の会費振込用紙でお振込下さい。総会ご参加時にお支払い頂くことも可能です。卒業後 55 年以上（本年は昭和 33 年卒以前）の方は無料で

